

研究主題：平和の創り手となる人材を育成する主体的・協働的な平和学習

北海道札幌南高等学校定時制 学級数4（校長 宮澤 一）

【はじめに】

1 実践の概要

地歴公民科等の各授業において戦争の悲惨さや平和の尊さを学んだ全校生徒が、より平和な社会を目指し主体的な態度で平和学習を進める。

平和祈念の巨大モザイク画の制作および展示、国際理解教育や戦争体験等の出前講座の受講、有志生徒による被爆体験を語り継ぐ「朗読劇」の披露、北海道被爆者協会ノーモア・ヒバクシャ会館への訪問、新聞紙上への投稿活動など、生徒が自ら探究し他者や地域社会と協働しながら、平和な社会づくりに貢献する。

実践により、国際平和に貢献する人材を育成するとともに、社会の発展に自ら尽力する資質能力を身につけさせることができた。さらに様々な背景を持ちながらも真摯に学校生活に臨む生徒の成長は、定時制への進学を考える中学生にも勇気を与えることとなった。



2 本校定時制課程について

本校定時制課程は昭和25年に普通科4学級として開設された後、70年以上の時を経て2860名の有為な人材を輩出した。生徒たちの「ウェルビーイング」のために、教職員が絶えず生徒に寄り添い、励まし、助言を試みる中で、「知・徳・体」のバランス良い成長を目指した教育活動を展開している。

なお、学び舎を共にする本校全日制課程は道内屈指の進学校である。本校の経営方針の一つに「全定融合」が提唱されている。全日制野球部に対する全校応援を全制定時制が合同で行ったり、協働して生徒会活動を実施するなど深い結びつきがある。

3 生徒の実態

近年、小中学校時代に不登校を経験した子どもたちを中心に定時制課程のニーズが高まっている。

本校もそれに違わず今年度は7年ぶりに30名を超える入学者を迎えている。中学校時代になかなか前向きになれず「学び直しをしたい」と心新たに本校の門をたたく生徒、社会人として活躍後「再度学びたい」と考え入学する生徒、また「働きながら学びたい」と考え定時制を選択した生徒が在籍している。

そのような背景を持ちながらも、一人ひとりが個々の興味関心や目標に応じた「学び」を日々体得し、生き生きと学校生活を送っている。

教職員は、コミュニケーション能力に苦手感を持つ生徒たちのために、地域社会との連携を厭わずに行い、生徒の資質能力を伸ばさせるための様々な教育活動を企画・推進している。

【平和の創り手となる人材を育成する主体的・協働的な平和学習】

1 実践の目的

戦後80年の節目の年を前に、史実としての戦争とその時代背景を生徒に客観的に捉えさせた上で、歴史上唯一、戦争で使用された核兵器が二度と使われないようにするため、一歩踏み込んだ生徒主体の積極的かつ協働的で社会に開かれた平和学習の実践を試みる。

実践を進める中で、生徒に「世界平和や社会の発展に貢献する態度」を育成するとともに、「自己肯定感」や「他者との協働力」を身につけさせる。

2 各授業および関係機関による出前講座において戦争や核兵器について学ぶ

(1) 各教科等での学び

明治憲法と、その憲法下で行われた戦争について学ぶ。日清、日露、第一次世界大戦と10年ごとに戦争を繰り返し、勝利してきた日本が挑んだ太平洋戦争、その歴史的背景を含めた授業を展開した。また、生徒は戦争を題材とした映画の視聴やグループ討議で、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさ、平和の尊さについて主体的に学習を進めた。

(2) 出前講座等

① 北海道被爆者協会

シャンソン歌手であり被爆2世の松田様による被爆体験講話（被爆語り部および「Hiroshima」の歌唱と「ふるさと」の全員合唱）

② シベリア抑留体験を語る会札幌

抑留体験者 神馬様による戦争・抑留体験講話

③ 陸上自衛隊

第18普通科連隊・副連隊長による出前講座

④ 千島・歯舞居住者連盟

元海上保安官山崎様による国境と領土問題についての授業

⑤ 北海道ユニセフ協会および札幌ユネスコ協会

国際理解と国際貢献についての授業

⑥ 内閣府国際平和協力事務局

各国の紛争と国際社会の平和と安全の維持についての授業

3 生徒の主体的な取組

(1) 平和祈念モザイク画の制作

国際平和の貢献を目的に全校生徒が協力し、巨大モザイク画「嵐の中の母子像」「平和祈念像」を制作した。A3用紙1枚につき約1700のマス目に指定された色を塗り、それを104枚貼り合わせると、縦2m90cm・横3m25cmの巨大モザイク画が完成となる。着色には約12時間、貼り合わせには4時間を費やした。

モザイク画は、北海道庁で行われた「被爆の証言と原爆展」、札幌市民ギャラリーの「北海道平和美術展」および日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞を記念する特別展に展示した。

(2) 朗読劇の披露

1年生の5人グループが、朗読（3名）とPC操作（1名）および音響（1名）を担当し、朗読劇を製作した。

北海道被爆者協会から過去4冊の被爆者の証言集が発行されている。最新刊である「未来への架け橋～被爆者の証言第4集～」から3人の被爆者の手記を脚本化した。

5月の連休明けから毎週月・水・金の放課後21時から約1時間を稽古の時間に当て、それ以外の日は個別練習を重ねた。まず7月に全校生徒に披露し、その後は「被爆の証言と原爆展（北海道被爆者協会主催・北海道庁）」および「日本新婦人の会（厚別



区民センター）」、「被爆2世プラスの会（北農健保会館）」、「ノーベル賞受賞記念・ヒロシマ、ナガサキの証言（北海道庁）」で上演した。

(3) 北海道被爆者協会ノーモア・ヒバクシャ会館訪問

朗読劇に出演する生徒の1人から、さらに探究を深めたいとの要望があったため、希望者を募り北海道被爆者協会ノーモア・ヒバクシャ会館を訪問した。

生徒たちは、被爆者の遺品等の展示資料や映像資料を見学した。その中で当協会が高齢化に伴う活動継続の困難により、令和7年3月をもって解散することを知る。これがきっかけとなり、次年度も引き続き朗読劇を継続していくことが決まる。

(4) 新聞を活用した活動

生徒は、北海道新聞社「読者の声」に平和についての思いをつづり投稿を行う。

また、冬季休業明けには新聞社と連携し、生徒が新聞の作り方を学ぶ出前講座を行う。平和に関する新聞を作成し、発表を行う。

〈生徒による投稿〉私は北海道被爆者協会発行の証言集を基にした朗読劇「あの日 あの時 ヒロシマで」に参加しました。劇というと小学校の時の学習発表会などにはありましたが、朗読劇は初めての経験でした。何より「思いを伝える」ことが最も大切というのが今までとは違いました。▼朗読劇は声のトーンや抑揚の付け方、間のとり方などで感情を表現しなければなりません。体の動きで伝えることができる演劇とは違った難しさがあり、初めは戸惑いました。▼しかし、広島で被爆した方々から当時の様子や核兵器の恐ろしさなどの証言を聞いて、自分の中にイメージを取り込み、より深く感情をこめて演じられるようになりました。▼来年は戦後80年と聞きました。私たちは来夏に、長崎を舞台にした朗読劇を計画し準備しています。今回の経験を活かし、さらに心に響くような朗読劇を目指して頑張りたいと思います。そして、たくさんの方に戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていきたいです。

4 取組後の評価と改善について

平和学習を通じて、生徒から「平和な社会づくりに役立つことができるのであれば、お声かけいただければどこへでも伺い、朗読劇を披露したい。」という発言が出るようになるなど、生徒の主体性を引き出すことができた。また、これまで本校定時制課程では、「みんなで何かを作りあげる」という機会が少なかったことから、モザイク画の制作が仲間との一体感や完成後の達成感を与えることになった。さらに、人前で発表することが苦手だった生徒達にとって、朗読劇の成功が自己肯定感の醸成につながった。

モザイク画について、平和美術展で高評価を得たことから生徒は活動に自信を持ち、次年度の取り組みの計画が始まっている。次年度は「焼き場に立つ少年」をモチーフに、被爆の証言を書き入れる形で、より当事者意識をもたせた平和学習としたい。

また、朗読劇について、今回は道民被爆者の手記を基に教員が脚本・演出等を担当したが、次年度は、手記の脚本化、演出や稽古の日程調整等の運営の全てを生徒に委ね、主体性を大切にしたい取組みとしていく。

〈生徒対象のアンケート結果（11/11実施）〉

- 1 平和学習（公共等の授業やモザイク画制作、朗読劇鑑賞、被爆体験講話・歌唱鑑賞など）を行い、平和や戦争について知識を深めることができましたか。
 - ・深めることができた……………61.1%
 - ・やや深めることができた……………16.7%

- ・あまり深めることができなかった…22.2%
 - ・深めることができなかった……0.0%
- 2 平和学習を行い、平和や戦争について今までより興味を持つようになりましたか。
- ・持つようになった……38.9%
 - ・やや持つようになった…33.3%
 - ・あまり持てなかった…27.8%
 - ・持てなかった……0.0%
- 3 平和学習を行い、あなたは平和な社会を作るために「役立つこと」をしたいと考えるようになりましたか。
- ・考えるようになった……22.2%
 - ・やや考えるようになった…38.9%
 - ・あまり考えていない……38.9%
 - ・考えていない……0.0%
- 4 平和で幸せな社会を作るために、みんながどのようなことを学ぶと良いと思いますか
(3つまで複数回答可)
- | | |
|--------------------|---------------------|
| ・日本が戦争で与えた被害…27.8% | ・貧しい国が抱える問題……55.6% |
| ・原爆の被害……50.0% | ・世界の人々との交流……16.7% |
| ・原爆以外の戦争被害……27.8% | ・日本に住む外国人との交流…11.1% |
| ・沖縄の基地問題……11.1% | ・いじめの問題……50.0% |
| ・国連が果たす役割……5.6% | ・環境破壊の問題……11.1% |
| ・世界の平和運動……50.0% | ・女性や子どもの権利……11.1% |
- 5 感想（抜粋）
- ・世の中には苦しんでいる人が数え切れないほどがいる。苦しみに耐えられなくて亡くなってしまった人もいる。色々な人がいてみんなバラバラな理由がある中で、どのようなことがあって亡くなってしまった、被害にあったのかもっと知りたいと思いました。
 - ・いつしか、世界中の人々と交流をして、世界をもっと知りたいと思いました。
 - ・平和のありがたみを、多くの人と共感していきたいと思っています。
 - ・自分から進んで、戦争や紛争への啓発運動をしたいと思いました。

スクール・ミッションおよびスクール・ポリシーの確認のために生徒・保護者・教職員・地域住民等へのアンケート調査を実施した。その中で「一人一人の夢の実現を後押ししつつ、生徒には他者を尊重し、平和な社会の実現のために、常に努力を惜しまない姿勢を身につけてもらいたい。」と回答が寄せられた。

その回答をもとに、スクール・ポリシーにおける「育成を目指す資質・能力に関する方針」に「持続可能で平和な社会の実現に向かい、主体的・自律的な態度で行動する力」を追加することとした。本校のひとつの柱として本実践をさらに深め、未来の平和を担う人材の育成に努めていく。



原爆展で披露する朗読劇の練習に励む前川玲奈さん（左端）ら札幌南高定時制1年の有志5人

原爆展は被爆70年の2015年、「記憶の風化が進む中、もっと積極的に被爆者の声を届けたい」と始まった。毎年7月に道庁本庁舎1階ロビー（札幌市中央区）で被爆者や被爆2世の講演のほか、協会が運営する「北海道ノーモア・ヒバクシャ会館」（同市白石区）で保管するパネルや熱線で変形したラムネ瓶などを展示してきた。

10回目原爆展札幌で18日朗読劇

広島、長崎の原爆被害の悲惨さを伝えようと、被爆者が当時の経験を語る「原爆展」が今年、10回目を迎える。来春解散する北海道被爆者協会の主催としては最後の開催。原爆を巡る新たな継承のあり方の模索が続く中、初めて高校生が登場し、朗読劇を披露する。

札幌南高生 伝えるヒロシマ

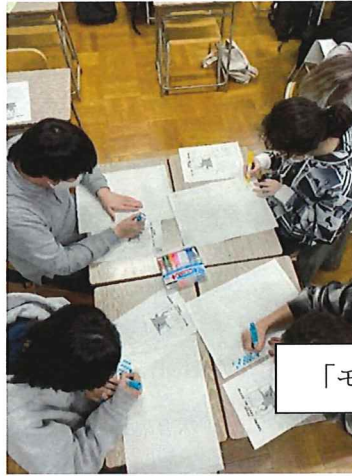
ら、札幌南高定時制1年の有志5人が、協会発行の証言集を基にした朗読劇「あの日のあの時 ヒロシマで」を披露する。同高などで平和教育に取り組んできた野口隆教諭（60）が発表を申し出て、協会も快諾した。

約15分の劇は1945年8月6日の広島が舞台。少女と志願兵の青年が、被爆して皮膚を垂らした人を目にした時、下痢や発熱が続き死の恐怖におびえたりする心情を表現する。練習の合間にヒバクシャ会館を訪れ、被爆への理解を深めたという。当時12歳だった松本郁子さん（91）札幌市在住の役を演じる前川玲奈さん（21）は「被爆者をこれ以上出さないために、『人間が争わず許し合う』気持ちが必要で、戦争が起きない世界になってほしいという思いを込めたい」と話す。

解散後に原爆の非人道性などをどう伝えていくかは協会の課題で、理事の松本さんは「遠い昔のことだとしても、若い人が語り継いでくださるのはありがたい」と感謝する。当日は会場が劇を見守るという。

両日も入場無料で、展示は午前9時～午後4時。来年は降は2世が中心となり開催する見込み。

（工藤俊博、鈴木雅人）



「モザイク画制作」

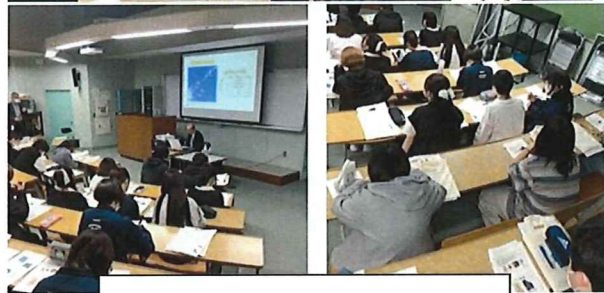


「朗読劇」 1. 被爆の証言と原爆展（北海道道庁） 2. 新日本婦人の会（厚別区民センター）

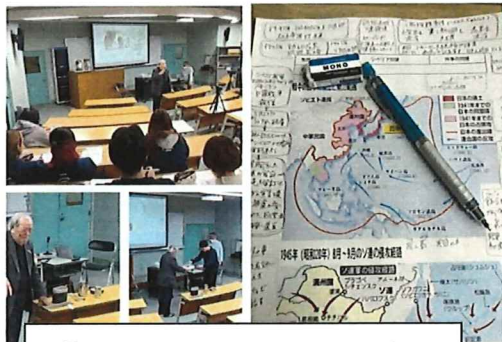
令和6年度 第15回 教育実践顕彰論文添付資料②【札幌南高（定時制）】



「ユネスコ協会」



「千島歯舞諸島居住者連盟」



「シベリア抑留体験を語る会」



「被爆2世プラスの会」